

# 企業ニュース **ダイト**

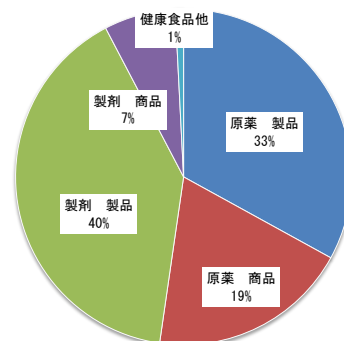
(東証1部 : 4577) <http://www.daitonet.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

## 原薬・製剤を一貫製造する製薬メーカー

1942年、大東亜薬品交易統制として設立。富山家庭薬の東南アジアへの輸出統制を行う。配置用医薬品製造、原薬販売、ジェネリック医薬品製造、原薬製造と事業領域を拡大させてきた。1991年、現在の社名に商号変更。日米欧の医薬品等の製造管理・品質基準を満たした高い技術力を持つ。原薬と製剤、新薬からジェネリック・OTC（市販薬）まで幅広い領域のカバーを背景とした情報収集力にも強みがある。医薬品メーカーへの販売や委託販売、製造受託が主要ビジネスで、販売並びに開発に係るコストを抑え製造への経営資源の集中を図っている。ジェネリック医薬品使用促進などの政策を追い風に業績は拡大傾向にあるが、さらなる成長を目指し、抗がん剤などの高薬理活性剤市場やグローバル展開などにも注力している。

◇18.5期売上高構成比



(出所) ダイト資料よりCAM作成

## ジェネリック市場の拡大を背景に成長

19.5期・第3四半期累計（6-2月）業績は売上高が304億円、前年同期比3%増、営業利益が37億円、同15%増。原薬では一部仕入商品の販売減少があったものの、ジェネリック向けの伸長で補った。製剤では、OTC向けや医療用医薬品の製造受託の販売が減少し微減収となった。販売ミックスの改善、生産性向上などにより増益を確保した。第八製剤棟が2018年11月に竣工、これに伴い減価償却費など費用は発生するが、上市品（2018年6月：血圧降下剤、抗リウマチ剤、12月：抗うつ剤）などの拡販で吸収した模様。

19.5期の会社計画は売上高が408億円、前期比2%増、営業利益が43億円、同3%増。従来計画を据え置き、原薬・製剤の商品部門での競争激化、製剤・製品での製造受託の減少を、自社ジェネリック医薬品の増加で補う計画。通期計画に対する第3四半期までの売上高、営業利益は75%、85%の進捗率で、計画は保守的で超過達成を予想する。第八製剤棟の竣工により、今後市場拡大が期待できる、高薬理活性剤の製造体制も整った。

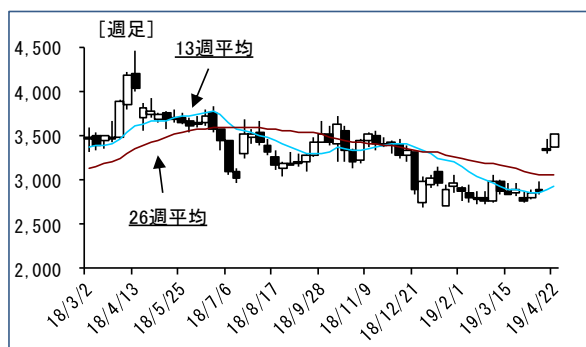
### [株価動向・投資判断]

決算発表を受け株価は上昇したが、依然PERで14倍台の水準と上値余地があろう。ジェネリック市場拡大の恩恵を享受し、中期的な成長が可能な銘柄として注目したい。

<4577 ダイト 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高		営業利益		経常利益		当期利益		1株利益		1株配当	
	百万円 (伸び率)		百万円 (伸び率)		百万円 (伸び率)		百万円 (伸び率)		円		円	
17.5	37,984	( 4)	3,832	( 8)	3,878	( 4)	2,656	( 4)	212.3		記33.00	
18.5	39,875	( 5)	4,161	( 9)	4,244	( 9)	3,041	(14)	243.1		33.00	
19.5 予	40,800	( 2)	4,300	( 3)	4,350	( 3)	3,100	( 2)	247.7		36.00	



[主要株価指標]		(売買単位 : 100株)
株価 (2019/4/22)		3,520 円
年初来高値 (高値日)		3,530 円 (19/4/22)
同 安値 (安値日)		2,711 円 (19/1/15)
予想 P E R (19.5 予)		14.2 倍
1株株主資本 (PBR算出用)		2,403.7 円
P B R		1.46 倍
予想配当利回り		1.02 %
(1株当たり配当金 36.00 円)		
R O E (18.5)		11.4 %
発行済み株式数		1,252 万株